

Economic Indicators

発表日: 2023年10月19日(木)

貿易統計(2023年9月)

～7-9月期の実質輸出は小幅増加。自動車輸出の回復ペースが鈍化～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL:03-5221-4525)

	貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量					
			輸出金額		輸入金額		アメリカ		EU		アジア			
	原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比		
22年	4月	▲ 8,549	▲ 14,544	12.5	28.3	▲ 4.5	7.9	6.8	▲ 8.2	▲ 8.9	▲ 10.2	5.2	▲ 15.5	
	5月	▲ 23,661	▲ 18,341	15.8	48.5	▲ 3.5	▲ 1.1	▲ 2.0	▲ 4.2	4.6	▲ 1.7	6.3	3.1	
	6月	▲ 13,750	▲ 19,326	19.2	45.6	▲ 1.6	▲ 1.7	6.7	▲ 2.5	1.3	▲ 1.8	▲ 6.7	2.0	
	7月	▲ 14,219	▲ 21,877	19.0	46.9	▲ 2.0	▲ 5.6	17.3	▲ 2.2	2.2	17.5	▲ 4.2	2.2	
	8月	▲ 27,904	▲ 22,512	22.0	49.3	▲ 1.1	10.4	▲ 1.5	▲ 3.9	2.7	4.0	▲ 8.4	4.1	
	9月	▲ 20,992	▲ 20,558	28.9	45.8	3.8	18.2	11.2	▲ 2.5	▲ 1.6	1.8	5.8	▲ 0.1	
	10月	▲ 21,715	▲ 22,681	25.3	53.6	▲ 0.3	4.7	9.3	▲ 6.1	5.6	4.9	22.8	6.0	
	11月	▲ 20,319	▲ 18,057	20.0	30.3	▲ 3.6	1.0	9.0	▲ 8.3	▲ 4.6	▲ 7.7	3.2	▲ 4.7	
	12月	▲ 14,586	▲ 18,494	11.5	20.8	▲ 7.1	▲ 2.7	10.1	▲ 12.3	▲ 6.4	▲ 5.4	11.2	▲ 10.3	
	23年	1月	▲ 35,064	▲ 17,629	3.5	17.6	▲ 10.9	▲ 3.4	▲ 4.3	▲ 15.3	▲ 2.3	▲ 10.5	▲ 6.6	▲ 3.1
		2月	▲ 9,199	▲ 11,972	6.5	8.5	▲ 7.9	▲ 1.2	1.4	▲ 12.8	▲ 7.8	▲ 6.3	0.1	▲ 8.7
		3月	▲ 7,588	▲ 11,979	4.3	7.4	▲ 8.2	▲ 9.2	▲ 12.6	▲ 10.7	▲ 2.5	▲ 3.1	▲ 3.6	▲ 0.8
4月		▲ 4,364	▲ 9,926	2.6	▲ 2.3	▲ 6.1	▲ 5.6	▲ 2.4	▲ 12.6	▲ 0.3	▲ 7.6	▲ 3.5	4.2	
5月		▲ 13,821	▲ 7,836	0.6	▲ 9.8	▲ 6.4	▲ 4.1	0.2	▲ 12.5	▲ 5.1	▲ 5.1	▲ 2.3	▲ 5.6	
6月		392	▲ 5,680	1.5	▲ 12.9	▲ 4.8	▲ 3.9	0.0	▲ 11.4	▲ 5.9	▲ 10.7	9.9	▲ 5.1	
7月		▲ 637	▲ 5,829	▲ 0.3	▲ 13.6	▲ 3.3	2.5	▲ 0.3	▲ 10.6	▲ 4.4	▲ 14.3	20.0	▲ 8.1	
8月		▲ 9,378	▲ 5,530	▲ 0.8	▲ 17.7	▲ 5.3	▲ 3.6	1.5	▲ 10.4	▲ 7.2	▲ 11.0	6.1	▲ 7.7	
9月		624	▲ 4,341	4.3	▲ 16.3	0.7	6.6	0.8	▲ 2.6	▲ 2.5	▲ 14.3	▲ 3.7	0.4	

(出所) 財務省「貿易統計」、前年比(%)

○貿易赤字(季節調整値)は高水準の赤字が続く

財務省より発表された23年9月の貿易統計では、名目輸出が前年比+4.3%、名目輸入が同▲16.3%、貿易収支は+624億円の黒字(事前の市場予想: ▲4,250億円、筆者予想▲3,819億円)となった。名目輸出が3か月ぶりの前年比プラスへ転じた一方で、名目輸入の大幅な前年比マイナスが続いたことで、事前予想を大きく上回る結果となった。季節調整値でみると、名目輸出が前月比+7.2%、名目輸入が同+5.4%とどちらも増加し、貿易収支は▲4,341億円の赤字となった。前月から赤字幅縮小となったものの、季節調整値では高水準の赤字が続いている。なお、これまで輸入物価の下落に伴い速いペースで減少してきた名目輸入だが、足元の原油価格は再び上昇基調を強めていることから、今後は減少ペースを緩める見込みである。季節調整値で貿易収支が黒字に転じるには、まだ時間がかかるだろう。

物価変動の影響を除いた実質輸出(季節調整値)は、9月は前月比+5.3%(8月: 同▲6.9%)と2か月ぶりの増加となった(実質化と季節調整は第一生命経済研究所)。前月に大きく落ち込んだ一般機械が反動増となったことが押し上げた(前月比: 7月▲12.0%、8月+11.2%)。その一方で、輸送用機器が同▲3.5%(7月: 同+0.9%)とまとまった幅での減少となり、23年入り後急速に回復してきた自動車輸出の増勢に鈍化がみられる結果となった。

四半期で見ると、7-9月期は前期比+0.1%と小幅の増加となった(4-6月期: 同+2.6%)。主な品

目別では、自動車生産の回復が続いていることで輸送用機器が前期比+1.8%（4-6月期：同+10.7%）と増加が続いた。一般機械は前期比+1.1%（4-6月期：同▲2.9%）、電気機器は前期比+1.9%（4-6月期：同▲1.4%）とこちらもそれぞれ増加に転じたが、これまでの落ち込みからの反動の域を出ない。世界的な製造業部門の景況感低迷が続く中で、自動車以外の製品は一進一退を繰り返しており、増加傾向に転じるにはまだ時間を要するとみられる。

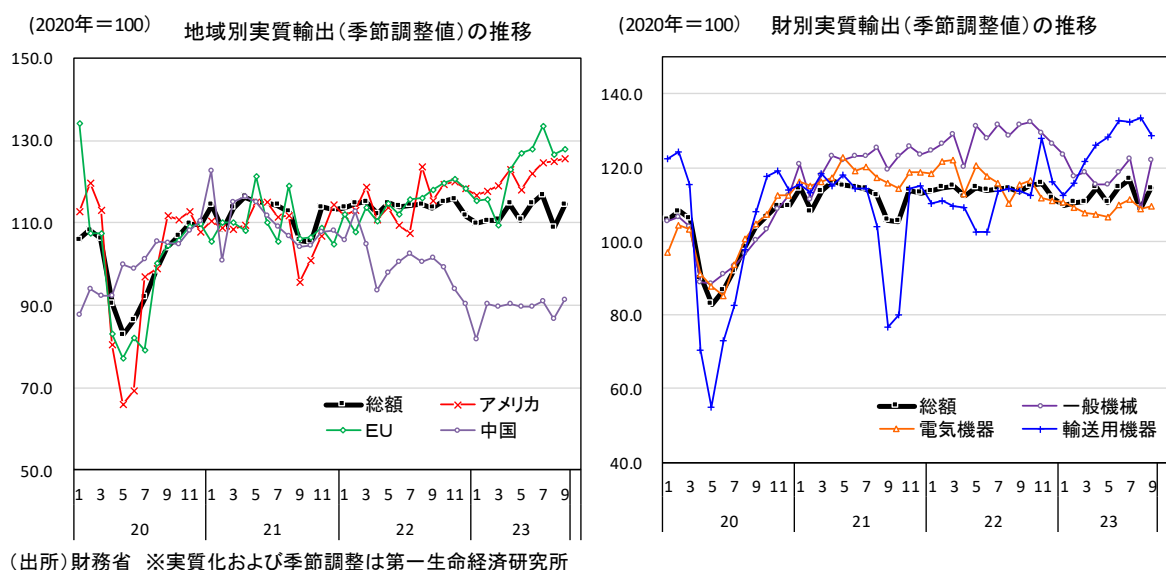
7-9月期は自動車輸出の回復が押し上げに寄与したものの、自動車以外の輸出は減少傾向に歯止めがかかっていないことから実質輸出は回復軌道に乗らず、停滞感の強い状況だ。加えて、自動車輸出についても、今後はこれまでの挽回生産の縮小によって増加ペースを鈍化させていく可能性が高い。実質輸出は当面低調な推移が続くだろう。

○地域別実質輸出の動向

物価変動の影響を除いた実質輸出（季節調整値）を地域別にみると、米国向けが前月比+0.5%（8月：同+0.4%）、欧州向けが同+1.2%（8月：同▲5.3%）、中国向けが同+5.1%（8月：同▲4.5%）となった。また、四半期で見ると、7-9月期は米国向けが前期比+3.4%（4-6月期：同+2.8%）、欧州向けが前期比+2.8%（4-6月期：同+9.8%）、中国向けが前期比▲0.3%（4-6月期：同+3.0%）となった。

米国向け、欧州向けは、両者ともウェイトの大きい自動車輸出の増加が支えとなって、均せば持ち直し傾向で推移している。もっとも、自動車を除けばともに減少傾向が続いている点には注意が必要だ。米国、欧州ともに国内の財需要は減速しており、製造業部門の景況感低迷が続いている。加えて、今後はこれまで積みあがっていた自動車需要も一巡することで、自動車輸出の回復も鈍化する可能性が高い。先行きは米国向け、欧州向けもペースは抑制される可能性が高いだろう。

中国向けは、電気機器やその他財輸出で減少傾向が継続しており、中国経済の減速によって23年入り後から底を這う動きが続いている。これに加えて、8月以降は半導体製造装置の輸出規制強化や中国の日本産水産物の輸入規制など、日中間の政治的要因による下押しもあり、こうした影響は長期に渡る可能性がある。先行きについても、中国景気の低迷が続く中で政治的要因も絡み、中国向け輸出は軟調な推移が続くだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。